

# アジア侵略・反革命への突撃を許すな！ 日帝の韓国「戦時体制」促進を糾弾せよ！



8月2日  
第129号  
本号4頁60円  
1年間(24回開封・送料込) 1700円  
発行所  
東京都豊島区池袋  
2-11-2白石ビル  
怒涛社  
電話 03(982) 3312  
振替 (東京) 8-147121  
編集 発行人 中川進

プロレタリア世界革命の旗の下  
万国の労働者団結せよ！  
労働者共産主義委員会

## 三木訪米の政治的ねらい 労働者・人民の革命的前進に敵対 反動的たてなおしの共謀を策す

インドシナ三国人民の民族解放戦争の勝利の前進と、その国内建設の遂行、そして外交関係の展開は、東南アジアから極東へかけての革命勢力と反革命勢力の力関係をますます革命勢力に有利なものに変えつつある。こうした状況の下で、専制支配を強め、「戦時体制」完成へ突進しつつある南朝鮮と、専制支配を維持し、反革命勢力を激化させているフィリピン・マルコス政権、政治弾圧を激化させているマレーシア・シンガポールなどの反共・反革命政権への支持と、その反人民的専制支配の促進は、日米支配階級にとって緊急で、同時に死活の問題である。

三木訪米の目的は、政府自身によって発表されているように南朝鮮情勢に連動した日米の意志一致を行うことである。南朝鮮においては、ベトナムカンボジアにおける民族解放戦争の勝利によって、彼らの支配階級は、彼らの支配階級の危機を乗りこえるために、一気に「戦時体制」の強化へと突進した。緊急措置九号をはじめとして、一切の政治的発言を封じこめ、社会的活動を制限し、同時に、学生や人民一般に対する包括的な戦時体制を著々と進めようとしている。しかも、千二百億円の防衛税の新設など軍事費のひきあげによって、労働者人民への収奪の度合いを更に強め、これまでの彼らの経済政策の破綻、反人民的搾取、収奪政策を一層強化させようとしている。軍事的にはさらに自前の核武装の準備を現実に行き進めている。すでに核武装計画を伝えられる台湾とともに極東の反革命独裁政権一方は、近い将来の自前の核武装を進行させようとしているのである。これは

その経済危機の進行とともに日本資本にとっての市場は「容易ならざるもの」になってきているのである。いわゆる「資源問題」についても同様であり、しかもこれは国内での原発反対運動などの闘争とも関連している。こうした状況に対して資本家階級の行方方策は、各国支配階級の反動的支配を、かく安定させ、「経済援助」(実は搾取と収奪)を効率的に運営させ、帝国主義国としての経済的・政治的力をふりかざして強行的に市場を拡張しようとするところにある。

## 海洋博開催・皇太子訪沖糾弾闘争 政府・支配階級の攻撃を粉砕しよう

日本の支配階級による海洋博開催なる策動は、沖縄の労働者階級に低賃金、劣悪な労働条件をもたらす、農民から土地を奪い、漁場を破壊し、住民の生活環境を悪化せしめ、沖縄労働者人民の過酷な生活状態に更なる拍車をかけている。わが委員会は、この海洋博なるものが労働者人民にとって一体何なのか、利益を得るのは資本家階級なのか、それとも労働者階級なのか、莫大な費用を惜しまず出しても海洋博を行なうとする資本家階級の意向は何か、また名譽総裁

として皇太子をかたづけ、訪沖させようとするのは何故か。それをあますところなく暴露してやう。米帝国主義に協力し、全世界の労働者人民の闘いに敵対している日帝は、沖縄に政治的・軍事的、経済的の再編成し、侵略的・収奪的の加担者としてこの地位を安定させようとしている。資源開発と利潤獲得のために「海洋博」を最大限利用しようとする資本家階級の利益をもち、また右翼の反動的な攻撃も強まっている。労働者

人民が、日帝の侵略反革命策動と対決し、沖縄人民への支配、抑圧、搾取、収奪を叫び、排外主義、改良主義潮流と闘い、革命的な全国主義的団結を強固に築きあげることが極めて重要であり、国家権力、右翼の攻撃を断り、国家権力を断り、政府・支配階級にたいする闘いを断り、沖縄においても、「本土」にたいしても、支配階級の事前弾圧と闘争破壊策動を粉砕し、反撃する闘いを大きな力となつていなければならない。

集会・闘争短報  
「東アジア反日武装戦線」に恐怖する権力の大弾圧を粉砕する集会  
七月一日午後五時半  
千駄谷区民会館  
次号予告  
次号(八月十六日号)は八ページまで発行します。

### 沖縄での先進的戦士に対する 不当逮捕攻撃を糾弾する!!

六月から七月にかけて、沖縄県警は爆発物取締罰則第九条違反容疑などで沖縄の多くの先進的戦士を逮捕した。...

## 反動公選法成立 させた議員政党

七月四日、第七五普通国会は閉会した。政府・自民党は会期終了間際になって「公職選挙法改正法」を成立させた。...

### 米帝・エジプト・イスラエル 「新シナイ撤退協定」の名で 永続的現状固定化せらう

七月五日のキンシンジャーによるイスラエルに対する「エジプト提案」受諾後、米・イスラエル・エジプト三者の「第二次力引離協定」妥結の方向が急速に表面化してきている。...

### 団交要求沖電社前闘争 撤回させる会など

沖電社、島添さんへの不当解雇を撤回させる会は、二十数回にわたる団交再開要求闘争に抗して、六月十四日(日)に約千名の労働者学生への喝をくり返した。...

### 天皇訪米・訪日 天官問題全国で 宣伝闘争貫く

天皇の訪米、皇太子の訪日、皇太后の訪日、象徴天皇制そのものの徹廃の必要性を、プロレタリア革命をすすめる立場から断絶の宣伝闘争を全国で闘っている。...

### インドシナ三国人民の引き続く前進と 東南アジア各国人民の闘い

ベトナムにおいてはベトナム労働党、臨時革命政府、カンボジアにおいてはカンボジア王国民族連合政府、ラオスにおいてはラオス愛国戦線の指導の下に、断絶して武装を堅持している労働者農民を中心とする人民武装勢力があり旧支配階級の残存部分のあらゆる反革命的行為を監視し、経済活動の自立化の基礎のために生産活動を促進し、また退廃的な文化活動を一掃し、一握り旧権力機構を人民に奉仕していた方面における革命的闘争をすすめている。...

### 四面よりつつく

土地改革は必ずしもマルクス主義の課題であるかのようには混同されるのである。プロレタリア独裁を樹立することによって農民の個別的、集团的、所有を含めた私的所有をすべて廃絶することは、全く異なる二つの問題である。...

警察権力は、五月九日「東アジア反日武装戦線」のメンバーとして、八名を逮捕し、三名を指名手配した。そして、連捕者たちを、一連の侵略企業爆破闘争の執行者であるとして、反革命的起訴を行い、スピード裁判、極刑攻撃をまくらぐんでいる。

東南アジア、韓国の労働人民の反日米帝闘争、マラヤ人民の反日米帝闘争、エリトリア解放戦線の日飯攻撃、タイの旭硝子の公害糾弾、南朝鮮人民の日本化学工業の公害糾弾等々と呼び、断固闘争の政治的性質を抹殺し、爆弾マニアなるものにしたのである。

支配階級とその手代たちは東アジア反日武装戦線のたたかいの政治的性質を抹殺し、爆弾マニアなるものにしたのである。

日本帝国主義は、米帝のインドシナ侵略戦争に加担、協力したばかりでなく、アジア諸国に進出し、アジア人民の公然たる敵となつていく。

東南アジア、韓国の労働人民の反日米帝闘争、マラヤ人民の反日米帝闘争、エリトリア解放戦線の日飯攻撃、タイの旭硝子の公害糾弾、南朝鮮人民の日本化学工業の公害糾弾等々と呼び、断固闘争の政治的性質を抹殺し、爆弾マニアなるものにしたのである。

敵権力とプロレタリア革命の闘争は、東アジア反日武装戦線の闘争を、狂気の爆弾マニアであるとして描き出し、闘争の政治的性質を消滅しようとしている。

東アジア反日武装戦線のたたかいは、その客観的性質からしても、完全に明瞭に政治的階級的な闘争である。

「大倉組(大成建設)は明治維新以来、政商、死の商人」として日本反革命軍とともにあり、台湾、朝鮮、アイヌモシリ、沖縄、中国、大陸、東南アジア侵略の尖兵をつとめ、本国内層プロレタリアからの搾取と韓国、インドネシア、アラブ、ブラジルへの侵略を推進している。

新日日本帝国主義の代表的企業であり、大成建設の今日は、一九三三年新潟県の信濃電力、信濃川水力発電所工事現場で、大量虐殺された朝鮮人労働者等植民地人民の血と屍のうえに築かれていく。

「韓国産業研究所は、日帝企業業の韓国、台湾、マラヤ侵略に奉仕する活動を停止せよ」とオリエンタル製造などによる韓国工業団地視察団の派遣を中止せよ。オリエンタル製造は、韓国から撤退し、在韓資産を放棄せよ。

(一九七五、四、一九) 反日武装戦線という要求は全く正当である。明白にマラヤ武装解放勢力の敵であり、間組がマラヤ人民の警告をうけ入れない、と宣言している限り、間組が内外からの攻撃を受けるのは全く当然である。

旭硝子や日本化学などは、公然と公害企業を輸出してきている。東アジア反日武装戦線の闘争への攻撃は、マラヤ人民の革命戦争にたいし戦略的に呼応したバルチザン闘争であり、断固支持されねばならない。

「職制と日共そしてわが多数の協力を除いては、くたばれ三三三」のたう三三三と喜んでいく。こんな時時には無敵点火にすればいい。それならICをくすねて親指ぐらいの受信機を持って来い」といった意見が組合の班会議で出される。大きな拍手がわく。日共や協会が何と言おうが、労働者のしんがねの上にそりたつ重工業、マラヤ、ヒリピンで、人民武装勢力が防衛から対峙へむけ敵の攻勢と死力を尽したたかたつており、又、都市、農村での大衆的反政府闘争、反帝闘争にたちあがっている。韓国では、統一革命党の闘い、反共勢力の闘いが持続的につづけられている。このアジア人民の闘いは米帝とともに日帝侵略者にたいする闘いである。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

福田憲次、安宅義典、土田馨、三三三、のたう三三三と喜んでいく。こんな時時には無敵点火にすればいい。それならICをくすねて親指ぐらいの受信機を持って来い」といった意見が組合の班会議で出される。大きな拍手がわく。日共や協会が何と言おうが、労働者のしんがねの上にそりたつ重工業、マラヤ、ヒリピンで、人民武装勢力が防衛から対峙へむけ敵の攻勢と死力を尽したたかたつており、又、都市、農村での大衆的反政府闘争、反帝闘争にたちあがっている。韓国では、統一革命党の闘い、反共勢力の闘いが持続的につづけられている。このアジア人民の闘いは米帝とともに日帝侵略者にたいする闘いである。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

# 東アジア反日武装戦線の反侵略武装闘争を断固擁護せよ

## 労働者共産主義委員会

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

「反日武装戦線の闘争は、アジア人民の革命戦争にたいし、侵略と反革命の後方である。パラパラな打撃のみかきかねに、侵略と反革命の後方である。」

敵権力は、反日武装戦線をたたき、闘争勢力への治安攻撃を立ちさせ、潰滅させる集中的攻撃をおこなっている。

労働者共産主義委員会

# 共産主義革命

日本革命運動の現状を止揚し、プロレタリア革命の勝利の方向を明示する。

# 国際共産主義運動の教訓

## コミンテルンの歴史から

### 学 習

#### F 社会ファシズム論

##### 社民主要打撃論

一九七五年七月のソ連共産党第十五回大会で、トロツキ派のソ連共産党からの追放を前にして、スターリン派は、今までの富農に対する政策を告げ、第一次五年計画の準備を進め、第二次五年計画の準備を進め、スターリン派の対立を深めた。レーニン死後、コミンテルンの実質的指導者であるソ連共産党の党内闘争は、各国支部の党内闘争と結ぶべき大きな影響を与えてきたが、スターリン派とブハリン派の対立も、その例にもれなかった。

こうしてコミンテルンは、中国での国共合作の崩壊、統一戦線戦術の勝利とたたわられていた英露委員会の解体、ソ連国内での政策転換を背景に、スターリン派とブハリン派の対立を激化させ、第九回大会執行委員会(一九二八年八月)、第十回大会(一九三二年八月)、第十回大会(一九三五年七月)を通じて、新路線への転換を行なってきた。

新路線は、新たな「階級階級」の政策であるといわれ、「ファシストと左翼社会主義者のあいだに絶対的差異はなく、両者はすべて等しくブルジョア的であるから、共産主義者だけがブルジョアの唯一の代表であり、左翼社会主義者との同盟はブルジョアの分子との同盟であり、従ってそれは裏切りである」と主張された。こうして「ファシズムと社会民主主義には、絶対的差異はなく、社会民主主義はファシズムの一種をなす」という認識がもたらされた。

情勢に対する認識は第六回大会では、「第二期」として公式に定式化された。第一期は戦後から三年のドイツ革命敗北までで、「資本主義体制の極度に鋭い危機の時期、またプロレタリアートの側での直接革命的な行動の時期(国際情勢とコミンテルンに関する六回大会のテーゼ)、第二期は資本主義体制の漸次的かつ部分的な安定の時期、プロレタリア軍隊の守衛的戦闘とソビエト経済の復活、社会主義構築事業の成功の時期、第二期は八年から始まるもので、世界経済の諸矛盾の激化と発展の時期、「帝国主義的対立は尖鋭化し、また資本主義諸国における諸矛盾(階級闘争の鋭さを強めつつある。労働階級大衆の左への旋回)はますます鋭くなり、そして被植民地の叛乱運動が開始される」(同前)時期といふものである。

コミンテルンの新路線への転換は、各国支部の内部に少なからずの反対者と動揺、更に指導部の入れかえをもたらした。コミンテルンの新路線への転換は、最初はおだやかにこなされた。だがイギリス、フランスなどいくつかの支部からの抵抗(新路線への)とソ連共産党内でのスターリン派とブハリン派の対立の激化も重なり、新路線はますますセクト的教条的なものへと発展していった。

社民党の影響の強いドイツでは、社民党員が政府の一角を占めていたが、この政府により大衆運動は弾圧され、共産党系の大衆組織(赤色戦士同盟)は禁止され、社民党との対立は激化した。そんな訳もあって、ドイツでの新路線「社会ファシズム論、社民主要打撃論適用は、徹底したものであった。

新路線の下でのドイツ共産党の組織政策は、一九二九年頃には、まだ「工場委員会選挙のための独自の候補者リスト、独自の革命的評議会の組織化、独自のストライキ、闘争指導など」であった。だが、「三〇年頃には「自由労働組合から脱退せよ」というスローガンの下に、新路線をつくる方向が熱心に追求された。この方向がプロレタリアン五回大会(三〇年八月)での「修正主義的労働は上から下までファシスト的である。ドイツなど高度に発展した資本主義国では、独自の労働をつくることを内容とした決議に沿っていった。

新路線の統一戦線戦術は「下から」を唯一にしていたが、社会ファシズム論社民主要打撃論により、実質上意味をなさなくなっていた。ドイツ共産党は二年には、共産党系組織のみで「真の統一戦線」を作っている。すなわち「正しい連帯」としての反ファシズム行動「アンチファ」は「諸組織をまとめた」反ファシズム行動のこと引用者「プロレタリアの大衆抵抗のあらゆる形態を展開しななければならない。それ故にアンチファは、われわれが下からの統一戦線戦術をもっとも厚く適用できる形態である」(アンチマル共和国時代のドイツ共産党というものである。

だが、社民主要打撃論と統一戦線政策に於いて、セクト主義を始めたばかりではない。三二年八月のアンチファで、右翼の要求する州議会多数の投票に於いて、有名な「赤色人民投票」を行ない、実質的にナチス、右翼反動勢力

に手を貸すことになったのである。ナチス台頭を前にして、共産党は三二年四月条件つきで、「上から」の統一戦線を認める方向を示した。だが、労働者人民をナチズムに対して決起させず三三年一月ヒトラーの権力奪取を許すことになってしまった。

ナチスの台頭「権力獲得による」しめた新路線は、第三期論の誤り「各国階級情勢の具体的分析」でなく、ソ連での政策転換と党内闘争によって、恣意的に作り出され、スターリン派に利用されたという点を含みつつも、主に社民勢力との関係、ファシズムに対する態度を誤り、これが戦術全体を規定していったのである。

誤りの第一は、「社会ファシズム」という規定である。社民党員の一部が、政府警察などを部分的に担って、労働者人民の闘いを抑圧弾圧したことは事実であり、また、社民はブルジョアの支配を援助しているという点もいえる。だが、それだからといって社民とファシズムを同一視することはできない。社民は、ブルジョア民主主義(制度)の下で「社会主義」なるものを実現するという路線によって、ブルジョア民主主義を擁護するが、ファシズムはそれとは異なり、ブルジョア民主主義すら全面的に否定するといっている。

自ら拒み、ファシズム、資本家勢力に対決する共同行動、統一戦線に社民勢力を引き込むことを不可能にしたのである。誤りの第二は、社民主要打撃論をとることによって、社民攻撃を第一義的にシクト主義に陥ったこと、および権力と対決、闘争を後進化するという日和見主義である。

社民主要打撃論は、スターリンの「戦略」についての考え方に基づいて適用されたものであるが、主に次の二つの理由によって採用されている。

一つは、労働階級の多数を獲得することが、「三回大会」未だに戦略的任務であり、そのためには「主要な障害物である社民」を粉砕すること、二つめには「社会民主主義、ブルジョアジーのこの社会的大黒柱に攻撃を向けることによってのみ、プロレタリアートの主要な階級敵「ブルジョアジー」に打ちかかって敗北せしめることが可能になる」(国際情勢と各支部の任務に関する第十二回大会執行委員会テーゼ、三二年九月)

このように、社民主要打撃論は「下から」を唯一にしていたが、社会ファシズム論社民主要打撃論により、実質上意味をなさなくなっていた。ドイツ共産党は二年には、共産党系組織のみで「真の統一戦線」を作っている。すなわち「正しい連帯」としての反ファシズム行動「アンチファ」は「諸組織をまとめた」反ファシズム行動のこと引用者「プロレタリアの大衆抵抗のあらゆる形態を展開しななければならない。それ故にアンチファは、われわれが下からの統一戦線戦術をもっとも厚く適用できる形態である」(アンチマル共和国時代のドイツ共産党というものである。

「人民の星」派の分裂に関連して  
「人民民主主義革命」論を批判する(下)  
武庫雄一

反独占勢力結集という主張の二つの経路  
「人民民主主義革命」や「民族民主革命」の主張は、国際的に「日本の当面する革命」であるとした問題である。他の一つは、他方では日共が日本に「発達した資本主義国」という規定を与え、そのことばの下に、戦後の「先進国革命」の型の問題としても、反独占勢力の結集という方向を持ち出し、てきていた問題である。

前者は、米支配階級と日本支配階級の相互関係をどうするか、日本革命の権力問題を現在の権力の性格としてどうみていくかにかかわる問題である。また前者、後者ともに日本革命の現実

制は、新しい型の国家ではない」といっている。これは一般論を繰り返すことによつて既に(〇年代に於いて)イタリアなどのファシズム体制の下で、共産党を初めとして諸政党が非合法化され、組合は完全に御用組合化されているという経験を教訓にしていることを意味している。

更に悪いことは、「ナチスは、社会民主主義と労働組合を粉砕するの、プロレタリア独裁のための一種の前座である。その次に労働者大衆が、ドイツ共産党の指導によりかかるであろう」(マズリスキー、三二年八月)と、ファシズムの反動勢力を粉砕する態度、ファシズムの攻撃によって自動的に共産党(労働階級)の指導性が獲得されるかのような期待主義的態度をとっている。

こうしたセクト的態度は、広汎な労働者人民からの信頼を獲得できない。コミンテルンの指導者の一人であるマズリスキーは、コミンテルン執行委十一回総会(三二年四月)での演説で「ファシズムは、ブルジョア独裁の全体方法ではない」「ファシスト体

帝の支配の打倒を行う革命を独占資本以外のすべての階級層が一致して行うべきだとの意味で言うのである。「人民民主主義革命」を言う諸君は、まずこの二つの問題を明確に区別しなければならぬ。彼らはしばしば、一方では英・仏など日本とは異なるから人民革命だと言いつつ、他方では、英・仏なども含めて反独占民主主義革命だと言いつつきたのだから

それは、プロレタリア独裁を樹立する闘争の主体にとつて、一定の条件下で政治的ヘゲモニーを確立することによって意識あるたのである。プロレタリアーにとって必ず経なければならない「段階」というわけではないのである。

さらにその後は民族民主的課題というものは「モスクワ声明」(六一年)で次のように定式化されている。今日の植民地主義の柱としてアメリカをあげ、米帝を筆頭とする帝国主義者の新植民地主義を指摘する。そして、「植民地的抑圧のくびきを脱した諸国の民族的復興という切実な課題は、その民族の全愛国勢力を民族民主統一戦線に結集して、帝制主義と封建主義の残滓を断絶してたたかうことによつてはじめて成功のうちに解決できる」とし、民族民主的課題として、「政治的自主性の強化、農民の利益のための農地改革の実施、封建制度の遺物と残存物の一掃、帝国主義支配の経済的根源の絶滅、外国の独占体的制限とその国の経済からの逐逐、民族産業の建設と発展、人民の生活水準の向上、社会生活の民主化、自主的平和愛好の対外政策の実現、社会主義諸国やその他の友好国との経済協力と文化交流の発展」をあげている。

そして他方ではこの「声明」は先進資本主義国に関しても同様に民主主義的課題をかかげている。先進国についても同様に「民族的利益」と「民主的改組」を掲げているわけだが、この場合には、暗に平和革命が前提されているのである。ソ共の推進してきた「平和共存」の路線がより明確に表れているのである。しかし、どちらにしても、この両者が一対の路線として提起されたものであるという過去の事実を否定できない。

旧共産同の批判の正当性と限界  
旧共産同が、日共からの組織的批判において、日共をブルジョア民族主義者と批判したのは、日共が第一に世界革命の観点を放棄していること、第二に「対米従属」論によって対政府大衆闘争のほご先を反米闘争にねじまげようとしたこと、第三にプロレタリアートの政治的独自性を解消し、諸闘争を「国民」一般の要求として組織しようとしていたこと、第四に当時すでに開始されていた日本帝国主義の他の列強との抗争やアジア経済侵略を不当に軽視したことなどによってい

ヨア民族主義者と批判したのは日共が第一に世界革命の観点を放棄していること、第二に「対米従属」論によって対政府大衆闘争のほご先を反米闘争にねじまげようとしたこと、第三にプロレタリアートの政治的独自性を解消し、諸闘争を「国民」一般の要求として組織しようとしていたこと、第四に当時すでに開始されていた日本帝国主義の他の列強との抗争やアジア経済侵略を不当に軽視したことなどによってい

「人民民主主義革命論」では、しばしば、民主主義的課題が民族独立の他に政治的権利の獲得等

「二面へつづく」